

【彙報】

③その他

第23回東亜同文書院記念基金会授賞式

第23回東亜同文書院記念基金会授賞式が2017年2月1日、霞山会館（東京霞が関コモンゲート西館37階）にて催され、功労賞に村上武氏が選出され表彰されました。

この顕彰事業は東亜同文書院記念基金会によるものであり、その目的は、東亜同文書院およびその経営母体であった東亜同文会にかかわる研究や調査成果、および啓蒙的活動のうち、顕著な実績を認められた個人、団体や組織を顕彰するものです。東亜同文書院記念基金会を構成する滬友会（書院同窓会。2007年解散）、霞山会、愛知大学東亜同文書院大学記念センターからの推薦により同理事会において選出しており、1993年の第1回表彰以来、第23回目となります。これまで、書院生の大旅行に関する研究成果や東亜同文会の資料に基づく研究、東亜同文書院や東亜同文会の出版物のデータベース化事業、東亜同文書院生や卒業生による日中交流に関するメディア報道、その他日中交流の活発な活動などの成果に対して顕彰しております。

東亜同文書院記念賞 村上武 授賞理由

東亜同文書院教員の父徳太郎氏が荒尾精、近衛篤磨、根津一の三先覚を祭ってきた靖亜神社を継承してこられた。あわせて荒尾精の中国・東アジアとの協同、実践の精神を評価して、その著作や伝記の復刻、および啓蒙活動をすすめ、2016年、荒尾精の精神を『日清戦勝賠償異論』として刊行された。

